教員免許状取得科目

※卒業要件単位には含まれません。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	心理学概論Ⅰ(General Psychology Ⅰ)	教職科目 教職科目	オンライン（オンデマンド型）

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
教員免許状取得科目	2	1,2,3,4	経	前期	他	氏名　井川　純一 E-mail　junsama@tohoku-gakuin.ac.jp　内線　7734

授業の概要

心理学は「心の科学」であり、感じること、考えること、思いやることなど「心の働き」を明らかにしようとする学問である。本講義は、心理学のさまざまな研究分野の中から毎回異なるトピックに焦点を当て、学問としての心理学のエッセンスを網羅していく心理学の入門講義として位置づける。講義においては、心理学論、心理学史、学習心理学、知覚心理学、認知心理学、性格心理学、社会心理学、発達心理学、進化心理学、臨床心理学、心理学研究法といった広範な領域を機能主義、行動主義の観点から分野ごとに概観する。講義毎にミニレポートを提出させ、それに対するフィードバックを行う双方向型の講義とする。また、精神保健福祉士としての実務経験を活かしてメンタルヘルスの問題や臨床心理の現状などについても説明する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	心理学のアプローチや基礎的な用語を習得する。	○	○								
目標2	日常生活で起こる事象を心理学的な視点で観察することができるようになる。	○	○								
目標3	専門的な内容を他者にわかりやすく伝えられるようになる。			○							
目標4	得られた知識を元に建設的な議論を行えるようになる。			○							
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション 心理学とは
2	心理学とは何か ？（ 心理学論 ）
3	心理学はいかに研究されてきたか ？（ 心理学史 ）
4	経験から学ぶ（ 学習心理学 ）
5	情報の入力（ 知覚心理学 ）
6	情報の蓄積（ 認知心理学 ： 記憶 ）
7	出力としての思考・判断・意思決定（ 認知心理学 ： 意思決定)
8	行動の一貫性と個人差（ 性格心理学 ）
9	社会的存在としてのヒト（ 社会心理学 ）
10	ヒトの個体発生（ 発達心理学 ）
11	ヒトの系統発生（ 進化心理学 ）
12	心理学の臨床的応用（ 臨床心理学 ）
13	心理学はいかに研究するのか ？（ 心理学研究法 ）
14	心理学研究において注意すべき点（ 心理学と研究倫理 ）
15	講義のまとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○
B:意見の表現・交換	○
C:応用志向	○
D:知識の活用・創造	○

授業毎にミニレポートを提出させ，翌講義にてその内容についてフィードバックすることで，意見の表現交換を行う機会を与え，知識を定着させる。特に実生活に応用可能なコメントについて多くとり上げ，受講生の応用力を高める

その他の工夫

講義の内容や参考文献を予めホームページに公開し，質問やミニレポートの総評をWeb上で回答することにより，学習を促進する。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(18h)。
事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した心理的知識を実際の生活場面で捉える(14h)。

教科書

指定しない

参考書

講義中に紹介する

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
ミニレポート	30%	○	○								
期末試験	70%	○	○	○	○						

ミニレポートの提出回数が開講数の3分の2未満の場合は単位認定を行わない。期末テストは持ち込み不可。

注意事項

1．私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めない。
2．講義中に実験や調査への協力を求める場合がある。実験を体験することは心理学の学習を行う上で極めて有益なので積極的に参加してほしい。参加した者には

備考

この科目は教職単位であり、卒業単位には含まれません。オンデマンド型で行います。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	精神保健福祉士
教員以外の指導に関わる実務経験者	メンタルヘルスの維持向上について講義の中で解説する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	社会学(Sociology)	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
	2		経済	後期	水5	氏名　高島拓哉 E-mail　tataka@oita-u.ac.jp　内線　7678

授業の概要	身近な具体的問題を例示しながら、社会学的なものの見方を身につける。原理論を簡単に紹介してから、各論で具体的に社会学的な視点を紹介する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	社会学的な視点・方法を身につける		○									
目標2	地域の複雑な問題を解きほぐす応用力を身につける			○								
目標3	経済学との関連を視野において理解できる			○								
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	社会学の視点　社会的行為／文化・社会意識／社会システム
2	社会学理論の背景　共同体から市民社会へ／アノミーと社会病理
3	労働と技術と組織　労働の社会化／生産性の向上とアウトソーシング・市場化
4	中間集団：自治と統制　生徒会・学生自治会、部活動から考える／コミュニティとアソシエーション
5	地域社会（１）　コミュニティ論と町内会の現状、テーマ型コミュニティと町内会
6	地域社会（２）　町内会の変革　「ミニマム町内会」・法人化／強制の組織からボランタリー組織へ
7	地域社会（３）　ごみ出しをめぐる行為・意識・システム／ごみ出しルールと住民属性の齟齬
8	地域社会と環境問題（エコロジー）　「公害から環境問題へ」／住民・国家・環境問題
9	ジェンダーとアンペイドワーク　性別役割分業とワークライフバランス／アンペイドワーク
10	共生社会（１）　障害児教育を中心に　不就学問題から養護学校義務制へ／インクルージョンと特別支援教育
11	共生社会（２）バリアフリー　障害者トイレのないスウェーデン／障害者用駐車場は誰のため
12	排除する社会：貧困・移民　ボランティアの意識／ボーダーラインの扱い／“Winner takes all”の町
13	補完性の原理と「自助・共助・公助」　身近な単位から広域単位へ／国が自治を支える／システムの再編
14	行政組織の再編と市民的公共性　行政の「企業化」と「市民化」／行政経営からローカル・ガバナンスへ
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	ごみ問題の事例では実際にプラスチック容器などを持参して学生にどの分別項目に当てはまるか考えさせる。	生徒会、学生自治会の例など身近な例をとりあげて解説する。
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	日頃新聞等をよく読み、社会問題に関心を持ってもらう。
事後学修	講義で紹介した視点で身の回りの問題を考える習慣をつける。

教科書	なし
参考書	講義で紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
最終レポート	100%	○	○								

注意事項	私語厳禁。第1回で、レポートの書き方など細かいルールを示す。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	職業指導(Career Education)	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
教員免許状取得科目	2	2	経	後期	木2	氏名　渡邉　一朗（非常勤講師） E-mail　os210015@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要

我が国の産業構造や職業の変化、及び高等学校の進路指導の現状について理解する。また、（新）学習指導要領で示された、キャリア教育の改善・充実の指摘を踏まえ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育み、キャリア発達を促すため、各教科、特別活動、総合的な探究の時間等での指導の実際について学び、生徒が主体的に進路を決定できる実践的指導力を育成する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	高等学校における進路指導の現状と問題点を理解する。											
目標2	高等学校におけるキャリア教育を理解する。											
目標3	キャリア教育の授業づくりを理解する。											
目標4	専門高校における資格取得やインターンシップなどの特色づくりを理解する。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	高等学校における進路指導の現状と課題
2	キャリア教育の推進（１）（初等中等教育におけるキャリア教育の意義、必要性）
3	キャリア教育の推進（２）（新高等学校学習指導要領におけるキャリア教育関連事項）
4	キャリア教育の授業づくり（１）（各教科・科目で進めるキャリア教育の実際）
5	キャリア教育の授業づくり（２）（各教科・科目で進めるキャリア教育の実際）
6	キャリア教育の授業づくり（３）（ホームルーム活動におけるキャリア教育の実際）
7	キャリア教育の授業づくり（４）（職場体験・インターンシップの実際）
8	キャリア教育の視点に立った進路指導の実際（１）（年間指導計画）
9	キャリア教育の視点に立った進路指導の実際（２）（ガイダンスとカウンセリング）
10	専門学科等における職業教育の充実（職業教育の論点と基本的な考え方）
11	高等学校における勤労観・職業観の育成
12	専門高校における資格取得の推進（農業科、工業科、商業科、家庭科等の取組）
13	就職基礎能力(企業が採用に当たって重視する能力)
14	社会人基礎力（組織や地域社会の中で必要な基礎的能力）
15	職業的発達にかかわる諸能力の育成

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		・授業に小テスト等を取入れ、知識の定着及び応用力の涵養を図る。 ・課題レポート等の発表・討議を通して主体的・対話的で深い学びとなるように授業を進める。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	事前配付資料等を必要に応じて予習する（8h）
事後学修	授業時に扱った内容に関連する資料を参考にレポート等を作成する（8h）

教科書	授業中に指示する
参考書	授業中に適宜資料を配付する。 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総則編」（文部科学省ＨＰよりダウンロード） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「総合的な探究の時間」（同上）

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト、定期試験	60%										
毎回の授業終了時に、学習内容から課題を選定し、記述させる小レポート	40%										

注意事項	欠席等については、必ず連絡すること。 講義の連絡は、Moodle等で行うので授業前に必ず確認しておくこと。
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	公民科指導法A	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	3学年	経済学部	前期	木3	氏名　平田利文 E-mail　hirata@oita-u.ac.jp　内線　7545

授業の概要	公民教育の現状と課題、公民科教育の実践的動向を理解し、学習指導要領公民科の目標と内容について理解し、具体的な単元計画、学習指導案及び模擬授業案を作成・実施する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	公民教育の現状と課題、及び公民科教育の実践的動向について理解することができる。	○									
目標2	学習指導要領における公民科の目標や内容について理解することができる。	○									
目標3	学習指導要領の目標と内容に基づき、具体的な単元計画、学習指導案及び模擬授業案を作成し、模擬授業を実施できる。			○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	イントロダクション
2	公民教育の現状と課題
3	公民科教育の実践研究の動向
4	学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「公共」
5	学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「倫理」
6	学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「政治・経済」
7	公民科の評価方法
8	学習指導要領公民科の全体構成についてのまとめ
9	単元計画の作成：「公共」（情報機器及び教材の活用を含む。）
10	単元計画の作成:：「倫理」（情報機器及び教材の活用を含む。）
11	単元計画の作成：「政治・経済」（情報機器及び教材の活用を含む。）
12	学習指導案及び模擬授業の作成・実施「公共」（情報機器及び教材の活用を含む。）
13	学習指導案及び模擬授業の作成・実施「倫理」（情報機器及び教材の活用を含む。）
14	学習指導案及び模擬授業の作成・実施「政治・経済」（情報機器及び教材の活用を含む。）
15	学習指導案に基づく模擬授業の作成・実施に関する振り返り

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	公民科の目標と内容の理解及び学習指導案と模擬授業の作成においては、全員で討議(アクティブラーニング)する時間を設定しながら進める。		ICT機器を有効に利用する
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向	○			
	D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	事前に関連資料・データを収集しておく
	事後学修	講義で明らかになった必要な資料・データを追加的に収集する

教科書	高等学校学習指導要領、（令和４年度実施　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　公民編（令和４年度実施　文部科学省）
参考書	高校公民科の教科書 授業中に適宜資料を配付する

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
単元計画・学習指導案・模擬授業案の提出	80%	○	○	○							
模擬授業の実施	20%	○	○	○							

注意事項	・指導案作成・模擬授業には，公民科の教科書が必要なので，各自教科書を準備しておくこと。（どの出版社のものでもよい）
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	公民科指導法B	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	３学年	経済学部	後学期	木3	氏名　平田利文 E-mail　hirata@oita-u.ac.jp　内線　7545

授業の概要	高校公民科の模擬授業を分析することができ、単元計画及び学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	公民科の模擬授業の事例を分析することができる	○									
目標2	公民科の模擬授業のための学習指導案を作成することができる	○									
目標3	公民科の模擬授業を計画し、実施することができる		○								
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション
2	公民科の模擬授業の分析：「公共」
3	公民科の模擬授業の分析：「倫理」
4	公民科の模擬授業の分析：「政治・経済」
5	公民科授業の学習指導案作成：「公共」(教育機器の活用、ビデオ利用)
6	公民科授業の学習指導案作成：「倫理」」(教育機器の活用、ビデオ利用)
7	公民科授業の学習指導案作成：「政治・経済」(教育機器の活用、ビデオ利用)
8	模擬授業の実施(1)：「公共」(教育機器の活用、ビデオ利用)
9	模擬授業の実施(2)：「公共」(教育機器の活用、ビデオ利用
10	模擬授業の実施(3)：「倫理」(教育機器の活用、ビデオ利用)
11	模擬授業の実施(4)：「倫理」(教育機器の活用、ビデオ利用)
12	模擬授業の実施(5)：「政治・経済」(教育機器の活用、ビデオ利用)
13	模擬授業の実施(6)：「政治・経済」(教育機器の活用、ビデオ利用)
14	評価方法についてのまとめと振り返り
15	学習指導案及び模擬授業に関するまとめと振り返り

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回，テーマに関する討論学習（アクティブラーニング）の時間を設定する。模擬授業について振り返る。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	授業研究、理論研究、模擬授業のための資料・データを収集しておく
	事後学修	収集した資料・データを整理分析する

教科書	高等学校学習指導要領（2022年度実施　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説公民編（2022年度実施　文部科学省）
参考書	授業中に適宜資料を配付する

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
単元計画、学習指導案を改善し、より精緻化されたものが作成できたか	50%	○	○	○							
精緻化された模擬授業が実施できたか	50%	○	○	○							

注意事項	・指導案作成・模擬授業には，公民科の教科書が必要なので，各自教科書を準備しておくこと。（どの出版社のものでもよい）
備考	無し
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	商業教育論Ⅰ(Theory of Commercial Education I)	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
教員免許状取得科目	2	3	経済	前期	木1	氏名　渡邉　一朗 E-mail　os210015@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要	高等学校における教科等の指導力を育成するため、必要な教育関連法規の概要を知るとともに、（新）高等学校学習指導要領総則編及び商業編に示された具体的諸事項についての専門的な知識・技能（技術）と実践的指導力を習得する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	学校教育に関する関係法規や（新）高等学校学習指導要領総則編を理解する。										
目標2	商業編に示された各科目等の内容の概要を理解し、実践的指導力を習得する。										
目標3	商業教育の意義と必要性について、我が国の商業教育発展の歴史を踏まえ理解する。										
目標4	学習指導の基本を理解する。										
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	商業科教育論Ⅰ・Ⅱのガイダンス及び学び方
2	学校教育に関する法規（１）（日本国憲法・教育基本法）
3	学校教育に関する法規　（２）（学校教育法、学校教育法施行規則）
4	学校教育に関する法規（３）（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）
5	商業教育の意義と必要性
6	我が国における商業教育の歩み
7	（新）高等学校学習指導要領　総則編の概要（１）（総説、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施）
8	（新）高等学校学習指導要領　総則編の概要（２）（各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等）
9	（新）高等学校学習指導要領　総則編の解説（３）（編成配慮事項、単位の修得・卒業の認定、手順と評価）
10	（新）高等学校学習指導要領　総則編の解説（４）（特別な配慮が必要な生徒への対応）
11	（新）高等学校学習指導要領　商業編の解説（１）（教育課程の編成と実施）
12	（新）高等学校学習指導要領　商業編の解説（２）（指導計画の作成）
13	（新）高等学校学習指導要領　商業編の解説（３）（学習評価の実際）
14	商業科の学習指導法（１）（グループワーク実施の基本）
15	商業科の学習指導法（２）（学習指導案作成の基本）

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		・授業中にMoodleによる小テストの実施やグループワーク等を取入れ、知識の定着及び応用力の涵養を図る。 ・課題レポート等の発表・討議を通して主体的・対話的で深い学びとな	

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	事前配付資料等を必要に応じて予習する（8h）
事後学修	授業時に扱った内容に関連する資料を参考にレポート等を作成する（8h）

教科書	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）（文部科学省ＨＰよりダウンロード） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総則編」（文部科学省ＨＰよりダウンロード） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「商業編」（文部科学省ＨＰよりダウンロード）
参考書	授業中に適宜資料を配付する

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定期試験	80%										
毎回の授業終了時に、学習した中から課題を選定して記述させる小レポート	20%										

注意事項	授業中に小テスト等を実施するので、欠席等については、必ず連絡すること。 講義の連絡は、Moodle等で行うので授業前に必ず確認しておくこと。l
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	高等学校教員　「商業科」「情報科」
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
実務経験をいかした教育内容	（新）学習指導要領に実施に向けた各学校での取組事例の紹介

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	商業教育論Ⅱ(Theory of Commercial Education II)	教職科目 教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
教員免許状取得科目	2	3	経	後期	木1	氏名 E-mail　os210015@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要	高等学校における教科等の指導力を育成するため、必要な教育関連法規の概要を知るとともに、（新）高等学校学習指導要領総則編及び商業編に示された具体的諸事項についての専門的な知識・技能（技術）と実践的指導力を習得する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	学校教育に関する関係法規や（新）高等学校学習指導要領総則編を理解する。										
目標2	商業編に示された各科目等の内容の概要を理解し、実践的指導力を習得する。										
目標3	商業教育の意義と必要性について、我が国の商業教育発展の歴史を踏まえ理解する。										
目標4	学習指導の基本を理解する。										
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	商業科教育論Ⅰ・Ⅱのガイダンス及び学び方
2	学校教育に関する法規（1）（日本国憲法・教育基本法）
3	学校教育に関する法規（2）（学校教育法、学校教育法施行規則）
4	学校教育に関する法規（3）（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）
5	商業教育の意義と必要性
6	我が国における商業教育の歩み
7	（新）高等学校学習指導要領　総則編の概要（1）（総説、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施）
8	（新）高等学校学習指導要領　総則編の概要（2）（各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等）
9	（新）高等学校学習指導要領　総則編の解説（3）（編成配慮事項、単位の修得・卒業の認定、手順と評価）
10	（新）高等学校学習指導要領　総則編の解説（4）（特別な配慮が必要な生徒への対応）
11	（新）高等学校学習指導要領　商業編の解説（1）（教育課程の編成と実施）
12	（新）高等学校学習指導要領　商業編の解説（2）（指導計画の作成）
13	（新）高等学校学習指導要領　商業編の解説（3）（学習評価の実際）
14	商業科の学習指導法（1）（グループワーク実施の基本）
15	商業科の学習指導法（2）（学習指導案作成の基本）

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		・授業中にMoodleによる小テストの実施やグループワーク等を取入れ、知識の定着 及び応用力の涵養を図る。 ・課題レポート等の発表・討議を通して主体的・対話的で深い学びとな	

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	事前配付資料等を必要に応じて予習する（8h）
事後学修	授業時に扱った内容に関連する資料を参考にレポート等を作成する（8h）

教科書	教科書　高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）（文部科学省ＨＰよりダウンロード） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総則編」（文部科学省ＨＰよりダウンロード） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「商業編」（文部科学省ＨＰよりダウンロード）
参考書	授業中に適宜資料を配付する

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定期試験	80%										
毎回の授業終了時に、学習した中から課題を選定して記述させる小レポート	20%										

注意事項	授業中に小テスト等を実施するので、欠席等については、必ず連絡すること。 講義の連絡は、Moodle等で行うので授業前に必ず確認しておくこと。l
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	高等学校教員　「商業科」「情報科」
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
実務経験をいかした教育内容	（新）学習指導要領に実施に向けた各学校での取組事例の紹介

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	特別支援教育論B(特別支援教育論B)	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択（教員免許状を取得する場合のみ必修）	1	3	経済学部	前期	火5	氏名　衛藤裕司・古賀精治・古長治基 E-mail　eto@oita-u.ac.jp,skoga@oita-u.ac.jp,h-kocho@oita-u.ac.jp　内線　7537・7521・6147

授業の概要	通常学級に在籍する様々な障害（発達障害・軽度知的障害など）のある幼児，児童及び生徒に関し，学習上又は生活上の困難を理解し，個別の教育的ニーズに対応するための，組織的連携や必要な知識・支援方法について学ぶ。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を説明できる		○								
目標2	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する特別の教育課程や支援の方法を説明できる		○								
目標3	特別の教育的ニーズのある幼児，児童及び生徒の把握や支援について述べることができる			○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	特別支援教育に関する制度（担当：古長治基）
2	様々な障害の学習上又は生活上の困難（担当：古長治基）
3	発達障害等のある幼児児童生徒の理解　（担当：古賀精治）
4	発達障害等のある幼児児童生徒への支援（担当：古賀精治）
5	通級による指導と自立活動（担当：衛藤裕司）
6	個別の指導計画と個別の教育支援計画　（担当：衛藤裕司）
7	発達障害等のある幼児児童生徒への支援体制（担当：衛藤裕司）
8	その他の特別なニーズのある幼児児童生徒（担当：古賀精治，衛藤裕司，古長治基，非常勤）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	適宜小テスト等を行い、知識の定着を図る ディスカッションによる話し合いを行い，学び合う	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する（8h）
事後学修	授業時に扱った内容について考え、関連する資料を読む等して復習する（8h）

教科書	「改訂第３版　障害に応じた通級による指導の手引－解説とQ&A－」文部科学省著，海文堂出版，ISBN：978-4-303-12416-8
参考書	「小学校学習指導要領・小学校学習指導要領解説（平成29年4月告示）」文部科学省 「中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説（平成29年4月告示）」文部科学省

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テストまたはレポート（3回）	90%	○	○	○							
レポート	10%	○	○	○							

注意事項	欠席等ある場合は、必ず申し出ること。
備考	令和元年度以降の入学生のうち，教員免許状を取得する者は，教職の必修科目となる。 この講義は火曜日5限に開催されるが，講義の開始日は，経済学部の時間割および掲示板を参照にすること。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	教育原理	教職科目 教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1	経済学部、理工学部	後期	水1	氏名　吉野　敦 E-mail　ayoshino@oita-u.ac.jp　内線　7539

授業の概要	自らが受けてきた家庭や学校における被教育経験を振り返りながら、教育の本質・目標について歴史的、社会的、思想的背景についての基礎的知識をもとに理解し、教育現場で生じる多様な現代的教育課題について自分なりの教育観に基づいた考察を行い、教師としての責任と使命の自覚を深めることを目指す

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	教育の基本的概念及び理念に関する基礎的知識を身につける										
目標2	教育の歴史や思想に関する基礎的知識を身につけ、教育や学校の歴史的変遷を理解する										
目標3	目標１及び２の視点に基づき現代の学校教育が抱える諸課題について、自身の教育観に基づいた考察を行う										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	[教育」とは何か（教育の基本的概念１）
2	「社会」と「学校」（教育の基本的概念２）
3	「教師」とは何か（教育の基本的概念３）
4	「子ども」とはどのような存在か（教育の基本的概念４）
5	隠れたカリキュラム（教育に関する思想１）
6	教育と再生産（教育に関する思想２）
7	学校文化（教育に関する思想３）
8	発達とアイデンティティ（教育に関する思想４）
9	教育思想（教育に関する思想５）
10	教育と国家（教育に関する歴史１）
11	日本の近代化と教育制度（教育に関する歴史２）
12	「性の多様性」について考える（現代の教育課題１）
13	「主権者教育」について考える（現代の教育課題２）
14	教育における近代とポスト近代（現代の教育課題３）
15	講義のまとめと振り返り

アクティブラーニング			その他の工夫	
	A:知識の定着・確認			
	B:意見の表現・交換			
	C:応用志向			
	D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	
	事後学修	

教科書	指定しない
参考書	適宜指示する。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	毎回のワークシート	20%										
	授業への積極的な参加	20%										
	期末レポート	60%										

注意事項	
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	教育心理学(Educational Psychology)	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	経済学部，理工学部	前期	木2	氏名　中里　直樹・藤田　敦 E-mail　nakazato-naoki@oita-u.ac.jp　内線　７５３０

授業の概要	教育心理学の性格と課題，研究法，幼児・児童・生徒の発達の過程，学習と動機づけ，学級集団と学級経営，発達障害の理解と指導等に関する教育心理学の理論と技能を体系的に学び，教師に求められる基礎的な資質・能力を身につける。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	幼児期から児童期，青年期に至る心身の発達過程の特徴とそれに関連する環境要因の影響について説明できる。	○									
目標2	幼児，児童，及び生徒の学習に関する基礎理論を習得し，説明できる。	○									
目標3	動機づけ，集団づくり，評価など主体的な学習活動を支え高める指導のあり方についての基礎的な考え方を理解し，説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	教育心理学の意義と課題（中里）
2	教育心理学の研究法（中里）
3	幼児期・児童期の発達過程（1)：知的発達（中里・藤田）
4	幼児期・児童期の発達過程（2)：愛着の発達（中里）
5	青年期の発達過程（中里）
6	学習の基礎理論（中里・藤田）
7	学習理論の応用（中里・藤田）
8	記憶・思考の理論（中里・藤田）
9	動機づけの理論（中里）
10	教育における評価（中里）
11	人間の発達に関する諸理論（中里）
12	パーソナリティと適応（中里）
13	発達障害，学習障害の理解と指導（中里）
14	学級集団の構造と学級経営の理論（中里）
15	学校カウンセリング（中里・藤田）

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回の授業でライティング課題に取り組んでもらい，提出を求める。そこで記述された質問に対しては，次回の授業時に返答する。 また，適宜，映像教材やグループディスカッションも活用して，学生の動機づけを高め，深い学びに導く。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する（15ｈ）。
事後学修	授業で学習したことを配布資料や教科書も用いて復習し，ライティング課題に取り組む（15h)。15回分の授業内容についての総合的理解及び考察に努める(15h)。

教科書	『やさしい教育心理学 第5版（有斐閣アルマ）』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎著，有斐閣 適宜，配布資料も用いる。
参考書	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省） 生徒指導提要（平成22年3月　文部科学省） 新・教職課程演習 特別活動・生徒指導・キャリア教育（藤田晃之・森田愛子編著，協同出版，2021年）

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への積極的参加（ライティング課題，質問等）	50%	○	○	○							
期末試験	50%	○	○	○							

注意事項	授業回数の3分の1を超えて欠席した場合，期末試験の受験を認めない。 20分以上の遅刻，及び特別の事由がない早退は欠席扱いとする。遅刻3回をもって欠席1回と見なす。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	総合的な学習の時間の理論と方法(総合的な学習の時間の理論と方法)	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	経済学部、理工学部	前期	月3	氏名　牧野　治敏 E-mail　hmakino@oita-u.ac.jp　内線　7644

授業の概要	学習指導要領、学習指導要領解説編に沿って、年間指導計画に基づいた各学校の実践事例をカリキュラム・マネジメントをふまえながら講義する。 講義による理解を基礎として、自ら指導することを想定した単元計画と授業案をグループで設計する。また、他者の制作物をピアレビューし建設的修正意見により完成度を高める。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	総合的な学習の時間が設置された意義を、中学校・高等学校で育成すべき資質能力の観点から説明できる。		○								
目標2	地域の事象を教材として、教科横断的な観点を持ちながら、深い理解をえられる単元計画と授業を設計できる。		○								
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	総合的な学習の時間の学習指導要領上での位置づけについて（講義）
2	カリキュラム・マネジメントの観点からみた中学校・高等学校での実践事例（講義）
3	教科の学習内容を踏まえた総合的な学習の時間の年間指導計画について（講義）
4	総合的な学習の時間における評価の考え方と具体的な手法について（講義）
5	授業実践を想定した地域素材の調査と教材開発（調べ学習と単元計画・授業案作成の準備）
6	単元計画と授業案のグループ毎での作成（グループワーク）
7	作成した単元計画と授業案のピアレビューとジグソー法学習の実践（グループワーク）
8	学習指導計画最終案の作成と授業の振り返り
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	授業案に対してグループでディスカッションを行う。 他の人が作成した授業プランについて講評する。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	中学校学習指導要領解説または高等学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」を読む。各自の地元の自然、地理、歴史、行事、産業、観光資源等、授業の題材になりそうなものを調べておく。（４ｈ）
	事後学修	授業計画の構想・指導案の作成（8ｈ）
教科書		中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成２９年３月）文部科学省
参考書		中学校学習指導要領（平成２９年３月）文部科学省 高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成３４年度実施）文部科学省

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	最終課題	50%	○	○								
	毎回の授業の最後に提出する小レポートとグループワークによる制作物	50%	○	○								

注意事項	授業を受ける側ではなく、授業をする側としての意識を学んでください。授業の実際は氷山の一角であり、水の下にはその10倍くらいの氷（準備）があります。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	生徒指導の理論と方法（進路指導を含む。）()	教職科目 教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	経済学部、理工学部	前期	水1	氏名　長谷川　祐介 E-mail　yhasegawa@oita-u.ac.jp　内線　7541

授業の概要	学校教育における生徒指導に関する意義や児童生徒理解と指導の実践方法に関する学習、ならびに進路指導ならびにキャリア教育の意義と指導に関する学習を通して、学校教員として求められる実践的指導力の基礎を培う。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	生徒指導の意義と原理を理解できる。	○		○							
目標2	学校におけるいじめや不登校など問題行動への対応について理論や指導方法を理解できる。	○		○							
目標3	進路指導とキャリア教育の意義ならびに指導のあり方について理解できる。	○		○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	生徒指導とは何か：生徒指導の定義
2	生徒指導の構造：２軸３類４層構造
3	生徒指導の方法：児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、組織的対応
4	生徒指導の基盤：同僚性、マネジメント、家庭・地域の参画、児童生徒の権利
5	生徒指導と教育課程：教科、道徳、特別活動等における生徒指導
6	生徒指導体制：生徒指導の組織、教育相談体制、危機管理体制
7	生徒指導に関する法令：校則、懲戒、体罰
8	問題行動への対応（１）：いじめ、不登校
9	問題行動への対応（２）：今日的な課題と関係機関との連携
10	進路指導・キャリア教育（１）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
11	進路指導・キャリア教育（２）学校の教育活動全体を通じたキャリア教育
12	進路指導・キャリア教育（３）進路指導・キャリア教育の指導体制
13	進路指導・キャリア教育（４）職業に関する体験活動
14	進路指導・キャリア教育（５）ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育
15	進路指導・キャリア教育（６）児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題への対応

アクティブラーニング				
A:知識の定着・確認	○	学生のコメントペーパーへのリプライ，ディスカッション	その他の工夫	
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	
	事後学修	

教科書	文部科学省（2022）『生徒指導提要（改訂版）』
参考書	文部科学省（2011）『中学校キャリア教育の手引き（改訂版）』

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
課題レポート	40%	○	○	○							
授業時のコメントペーパー	60%	○	○	○							

注意事項	
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	教育の制度と経営論()	教職科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	経済学部、理工学部	後期	木4	氏名　住岡　敏弘 E-mail　sumioka@oita-u.ac.jp　内線　7532

授業の概要

本講義では、現代の中等教育制度の意義、原理、構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題について理解するとともに、学校や教育行政機関が有するそれぞれの目的とその実現の方法について経営の観点から理解する。なお、この講義では、制度的・経営的観点から、学校と地域との連携の意義や地域との協働の方法について理解するとともに、学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的取り組みについても理解を深める。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	公教育制度や学校経営の概念や原理を理解する			○							
目標2	わが国の教育行政制度や学校制度、学校経営の現状を理解し、課題について考える			○							
目標3	わが国の教育法制の体系を理解し、教師として教育活動に携わる際に必要な最低限の法的知識を身に付ける			○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	教育法制度（１）教育法規の体系と区分
2	教育法制度（２）教育を受ける権利・教育の機会均等など教育法制度の根本原理
3	学校教育制度（１）学校系統と学校体系、インテグレーションとアーティキュレーション
4	学校教育制度（２）わが国の学校体系、設置主体の多様化、公教育の問い直し
5	学校経営の基礎（１）マネジメントサイクル、学校評価システム
6	学校経営の基礎（２）学校と家庭、地域との連携、学校評議員、コミュニティスクール
7	教育内容・教育課程（１）学級という制度、学級経営
8	教育内容・教育課程（２）アクティブラーニングなど、今後の教育課程編成の基準の方向性
9	教師の力量形成のための制度（１）教育職員の種類と職務、教員養成制度、教員の任用・研修
10	教師の力量形成のための制度（２）教員の服務、懲戒・分限、教員評価、教員免許制度改革
11	教育政策と教育行政制度（１）教育政策形成の枠組み、文部科学省、教育委員会
12	教育政策と教育行政制度（２）国と地方の教育行政機関の関係、教育振興基本計画
13	幼児教育制度　　子どもの貧困対策大綱、シュアスタート
14	特別支援教育の制度　　幼稚園、保育所、認定こども園
15	教育財政の制度　　教育財政の制度構造、家計支出教育費の増大と教育扶助制度

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	学校経営や教育制度をめぐる課題についてグループワークを行う。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	・テキストの指定された箇所を通読してくる。　（20ｈ）
事後学修	・講義内容を振り返り、学習内容の整理を行う。　（25ｈ）

教科書

高妻紳二郎編著『新・教育制度論　第２版』ミネルヴァ書房、2023年。

参考書

岡本徹・佐々木司編著『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房、2016年。
河野和清編著『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房、2014年。
佐々木正治・山崎清男・北神正行編著『教育経営・制度論』福村出版、2009年。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定期試験	70%	○	○	○							
中間レポート	20%	○	○	○							
授業時のコメントペーパー	10%	○	○	○							

注意事項

新聞やメディアで報じられる教育改革の話題に日ごろから注意しておくこと。

備考

リンク

URL